

教育研究業績書

所属	職名	氏名
文化言語学部	准教授	山川 仁子
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概要
(1)教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
現実に即した」教育の実践 (レリアアを積極的に用いた教育)	平成10年6月～現在	NEC九州で開講した中国人研修生向け「日本語」コース(非常勤講師)、および熊本県立大学で開講した「留学生日本語A-1(発音・会話)」、(非常勤講師)、尚綱大学で留学生向けに開講している「初級総合日本語」「日本語Ⅲ」「聴解・会話」において、現実に即した発音練習・会話練習ができるよう、実際の地方ニュースや講義を録音・録画して教材を作成し、聴解・発音練習を行った。また、日常生活で頻繁に耳にする方言を授業に取り入れて聴解・発音練習を行い、研修生・留学生が地域社会へ適応できるような手助けを積極的に行っている。
「気づき」と「フィードバック」を目的とした学生相互評価の実践	平成15年4月～現在	ヒューマンアカデミー日本語教師養成講座で開講した「初級実習」「中上級実習」「初級指導法」、愛知淑徳大学人間情報学部で開講した「文献講読演習」「基礎ゼミ」、尚綱大学文化言語学部で開講した「スタディスキルⅡ」および「多文化共生論」で、成果報告・研究発表の際、発表内容および発表方法について、評価用紙を用いて学生全員による相互評価を行った。評価結果は発表者にフィードバックした。これにより、発表者・評価者双方のプレゼン内容およびプレゼン力の向上に効果がみられた。
フィードバックによる講義内容の定着	平成22年4月～現在	愛知淑徳大学人間情報学部・健康医療科学部および尚綱大学文化言語学部・生活科学部で開講した講義全般において、毎回、講義内容に関する質問を質問用紙にて受け付け、翌週の授業で受講者全員に向けて解説・補足説明を行った。これにより、授業への積極的な参加を促し、また、講義内容の理解と定着を図った。課題を課す授業においては、提出課題やレポートにコメントをつけて返却し、こまめなフィードバックを行った。さらに、完成度の高い課題作品やレポートを受講生全員に示して、良い点を説明し、受講生全体の内容理解に努めた。
「見て学ぶ」教育の実践(視覚教材の利用)	平成22年4月10日～現在	愛知淑徳大学健康医療科学部で開講した「音響学・聴覚心理学」や「音響音声学特論」、および尚綱大学文化言語学部で開講した「音声言語」では、テキストだけでは分かりにくい口腔内の動きについて、内視鏡動画・MRI動画などを用いて視覚的に提示し、講義内容への興味、関心および理解の向上を図った。
聴能訓練の実施	平成22年4月10日～平成26年9月20日	愛知淑徳大学健康医療科学部で開講した「音響学・聴覚心理学」では、「高さ」「大きさ」「音圧レベル差」などの音響的差異を聞き分けるトレーニング(聴能訓練)を毎時間行い、将来、言語聴覚士として活動する上で最低限必要な音響的知識を感覚的に身につけさせた。

異文化トレーニング(体験型学習)の実践	平成27年4月7日～現在	尚綱大学文化言語学部で開講した「異文化理解」および「多文化共生論」で、シミュレーションゲームやロールプレイ型ディスカッションなど用いた異文化トレーニングを行い、多文化共生・異文化の疑似体験をさせた。これにより、「価値観・偏見・自文化中心主義」など多文化共生社会における異文化理解において最も重要なキーワードを体験的・実践的に学ばせることができた。
授業資料の公開	平成27年4月7日～現在	事前・事後学習の活性化のため、尚綱大学文化言語学部で担当したすべての授業において、授業配布資料をResearchmap上で公開し、受講生が自由にダウンロードできるようにした。
(2)作成した教科書・教材・参考書		
『第7次教育課程運営支援을 위한中等日本語教育課程-特技・適性職務研修-』テキスト	平成14年1月15日	全羅南道教育研修院, 全南研修2001-43, 「日本語の発音」pp.45-60。 韓国全羅南道教育研修院主催「特技適正授業(日本語)担当高校教師研修」で使用するテキストにおいて、「日本語音声学」の部分を担当・執筆した。
『心理実験演習Ⅰ・Ⅱ』(心理実験演習用教材)テキスト	平成23年4月1日	著者:天野成昭, 高橋伸子, 高原美和, 牧勝弘, 安田恭子, 山川仁子, 加藤みわ子, 行松慎二 愛知淑徳大学人間情報学部2年生選択必修科目「心理実験演習Ⅰ・Ⅱ」のために作成した。心理統計法, 統計ソフト操作方法, 実験レポートの書き方, 実験の心得などを1冊にまとめた。
『心理実験演習 マニュアル(改訂)』(心理実験演習用教材)テキスト	平成26年4月1日	著者:天野成昭, 牧勝弘, 安田恭子, 山川仁子, 加藤みわ子, 行松慎二 愛知淑徳大学人間情報学部2年生選択必修科目「心理実験演習Ⅰ・Ⅱ」のために作成した。心理統計法, 統計ソフト操作方法, 実験レポートの書き方, 実験の心得などを1冊にまとめた。レポートの書き方や課題などを改訂した。
『人間情報学部 基礎ゼミ2014』テキスト, 教師マニュアル	平成26年4月1日	著者:人間情報学部基礎ゼミ準備委員会(親松和浩, 國分三輝, 牧勝弘, 森博子, 村主朋英, 山川仁子) 愛知淑徳大学人間情報学部1年次必修科目「基礎ゼミ」(平成26年度開講)のために作成した。「クリティカルシンキング」(主担当), 「効果的プレゼンテーション」(副担当), 「施設利用案内」(主担当), 「卒論執筆要項」(主担当)の執筆を担当した。複数教員で同質の教育が展開できるよう, 各課の学びの目的・指導上のポイント, 事前準備などを示した教師マニュアルを作成した。
(3)教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(4)その他教育活動上特記すべき事項		
東北大学大学院公開ゼミ外部講師	平成20年2月	東北大学 電気通信研究所にて「外国語としての日本語ー日本語難発音を対象にした日本語音声分析」というタイトルで講演した。
早稲田大学国際教養学部公開ゼミ外部講師	平成21年9月	早稲田大学国際教養学部にて「外からみた日本語」というタイトルで講演した。
尚綱大学文化言語学部公開講座 講師	平成27年10月3日	尚綱大学文化言語学部公開講座にて、「音声でコミュニケーション」というタイトルで講演した。
台湾慈濟大学東方語文学部外部講師	平成29年9月	台湾・慈濟大学東方語文学部にて, 学生および教員向けに日本語教育関連の講義・講演を行った。

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻、号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
(著書)					
第7次教育課程運営支援을 위한 中等日本語教育課程-特技・適性職務研修-テキスト	共著	平成14年1月	全羅南道教育研修院, 全南研修2001-43, 韓国	全羅南道教育研修院編, 山川仁子	pp.45-60
Computer Processing of Asian Spoken Languages	共著	平成22年3月	Consideration Books, USA, ISBN 978-0-935047-72-1	Shuichi Itahasi, Shiu-yu Tseng編, S. Itabashi, K. Yamakawa, T. Osuga	pp.73-76
総合版ハンドブック「知識ベース」	共著	平成24年4月	電子情報通信学会, 東京	電子情報通信学会編 板橋秀一, 大須賀智子, 山川仁子	2群7編4章5節 pp.13-15
(論文)					
Subjective evaluation of Japanese voiceless affricate spoken by Korean	共著	平成18年7月	Journal of the Acoustical Society of Japan, Vol.27, No. 4	◎K. Yamakawa, Y. Chisaki, T. Usagawa	pp. 236-238
音声言語コーパスの現状と課題	共著	平成21年8月	電子情報通信学会誌, 92巻8号	板橋秀一, 山川仁子, 大須賀智子	pp.676-681
Perception boundary between fricative and affricate in Korean speakers	共著	平成22年11月	Journal of Acoustical Society of America, Vol. 128, No.4	◎K. Yamakawa, S. Amano	p.2352
Variables to discriminate affricate [ts] and fricative [s] at word initial in spoken Japanese words	共著	平成24年5月	Journal of the Acoustical Society of Japan, Vol. 33, No.3	◎K. Yamakawa, S. Amano, S. Itahashi	pp.154-159
破擦音[ts]と摩擦音[s]の生成範疇境界に対する発声速度の影響	共著	平成25年3月	愛知淑徳大学論集—人間情報学部編—, 第3号	◎山川仁子, 天野成昭	pp.21-25
Discrimination between fricatives and affricates pronounced by Japanese native speakers at various speaking rates.	共著	平成25年12月	Journal of AcJustical Society of America, vol.134, issue 5	◎K. Yamakawa, S. Amano	p.4071
日本語母語話者と非日本語母語話者の音声の知覚的区別	共著	平成26年3月	愛知淑徳大学論集—人間情報学部編—, 第4号	◎山川仁子, 天野成昭	pp.15-19
Variable to Discriminate Voiceless Affricates at Word Initial in Read and Spontaneous Japanese Speech	共著	平成26年4月	音声研究, 第18巻第1号	◎K. Yamakawa, S. Amano	pp.40-44
Development of Japanese read-sentence database for non-native speakers of Japanese	共著	平成27年3月	愛知淑徳大学論集—人間情報学部編—, 第5号	◎K. Yamakawa, S. Amano	pp.9-14

主体的な学びの促進を狙った初年次教育科目「基礎ゼミ」の開発	共著	平成27年3月	愛知淑徳大学論集—人間情報学部編, 第5号	國分三輝, 山川仁子, 牧勝弘, 村主朋英, 森博子, 親松和浩	pp.15-27
Discrimination of Japanese fricatives and affricates by production boundaries in time and spectral domains: A case study of a female native speaker	共著	平成28年7月	Journal of the Acoustical Science and Technology, Vol.36. No. 4	©K. Yamakawa, S. Amano	pp.296-301
(その他)					
【学会発表(国際会議, 査読有り, 第一著者分のみ)】					
The perception of the morae with the devocalized vowels in Japanese	共著	平成11年12月	Proceedings of International Conference on Spoken Language Processing '98, Sidney, Australia	©K. Yamakawa, R. Baba	pp.2199-2202
The perception of the devocalized vowels in Japanese	共著	平成12年10月	Proceedings of the 7th Western Pacific Regional Acoustics Conference, 熊本	©K. Yamakawa, H. Miyazono, R. Baba	pp.153-156
The perception value of the devocalized vowels in Japanese -In case of velar plosive-	共著	平成12年10月	Proceedings of International Conference on Spoken Language Processing (ICSLP2000), Vol.3, Beijing, China	©K. Yamakawa, H. Miyazono, R. Baba	pp.770-773
The affricate tsu in Japanese by Korean learners of Japanese	共著	平成17年1月	Proceedings of 2005 Youngnam-Kyushu Joint Conference on Acoustics, Pusan, Korea	©K. Yamakawa, Y. Chisaki, R. Baba, T. Usagawa	pp.29-32
Applying e-learning system to the training of Japanese pronunciation	共著	平成18年5月	Proceedings of 2nd International Conference of Information and Communication Technology, Surabaya, Indonesia	©K. Yamakawa, A. Ueno, K. Umeda, Y. Chisaki, T. Imanishi, I. Umeda, T. Usagawa	pp.1-6
Production of Japanese alveolar affricate by L2 learners of Japanese - Comparison between Korean and Thai learners	共著	平成18年6月	Proceedings of the 9th Western Pacific Acoustics Conference, No. 574, Seoul, Korea	©K. Yamakawa, Y. Chisaki, T. Usagawa	pp.1-6
Development of an utterance training e-Learning system for L2 learners of Japanese	共著	平成18年7月	IEEE Information Technology based Higher Education and Training 2006, Sydney, Australia	©K. Yamakawa, A. Ueno, K. Umeda, Y. Chisaki, T. Imanishi, I. Umeda, T. Usagawa	pp.1-6
Visualization of various speech corpora by multidimensional scaling	共著	平成19年12月	Proceedings of Oriental COCOSDA, 2007, Hanoi, Vietnam	©K. Yamakawa, T. Matsui, S. Itahashi	pp.122-125,
日本語学習者による日本語破擦音「ツ」の発音とその特徴-タイ人学習者の場合	単著	平成20年7月	Proceedings of Int. Conf. on Japanese Language Education (ICJLE2008), Pusan, Korea	©山川仁子	pp.326-329,

MDS-Based visualization method for multiple speech corpora.	共著	平成20年9月	Interspeech 2008, Brisbane, Australia	©K. Yamakawa, T. Matsui, S. Itahash	pp.1666-1669
Production boundary between fricative and affricate in Japanese and Korean speakers	共著	平成21年9月	Interspeech 2009, Brighton, UK	©K. Yamakawa, S. Amano, S. Itahashi	pp.468-471
Utilization of acoustical feature in visualization of multiple speech corpora	共著	平成21年12月	IEEE Speech Database and Assessments, Oriental COCODA, Beijing, China	©K. Yamakawa, T. Matsui, H. Kikuchi S. Itahashi	pp.143-147
Acoustic feature to discriminate between affricates and a fricative in Japanese.	共著	平成23年8月	The 17th International Congress of Phonetic Sciences (ICPhS XVII), Hong Kong, China	©K. Yamakawa, S. Amano	pp.2189-2192
Discriminant variables for Japanese single and geminate stops in spoken newspaper articles.	共著	平成24年7月	International Congress of Psychology (ICP2012), Cape Town, Rep.of South Africa	©K. Yamakawa, S. Amano, Y. Hirata	
Acoustic features to discriminate affricates and fricatives in Japanese corpora	共著	平成24年12月	Proceedings of the 2012 International Conference of Speech Database and Assessments, Macao, China	©K. Yamakawa, S. Amano	pp.177-180
. Discrimination between fricative and affricate in Japanese using time and spectral domain variables.	共著	平成25年8月	Interspeech2013, Lyon, France	©K. Yamakawa, S. Amano	pp.978-981
Development of Japanese read-word database for non-native speakers of Japanese	共著	平成26年9月	2014 International Conference of Speech Database and Assessments, Phuket, Thailand	©K. Yamakawa, S. Amano, M. Kondo	pp.65-70
日本語「ツ・ス・チュ・シュ」の明確な発声に最適なハングル表記	共著	平成26年9月	韓国日本語学会第30回国際学術発表大会, 韓国	©山川仁子, 天野成昭	pp.121-127
Acoustic features of Japanese words spoken by Japanese natives and non-natives	共著	平成27年7月	8th International congress of phonetic sciences, Milan, Italy	©K. Yamakawa, S. Amano	
Acoustic features of Japanese words spoken by Japanese natives and non-natives	共著	平成27年8月	18th International congress of phonetic sciences (ICPhS), Glasgow, UK	©K. Yamakawa, S. Amano	
Acoustic feature representing the unnaturalness of Japanese spoken by non-native speakers	共著	平成28年6月	8th International Conference on Second Language Speech, Aarhus University, Denmark	©K. Yamakawa, S. Amano	

Japanese singleton and geminate stops mispronounced by non-native speakers	共著	平成28年12月	5th ASA-ASJ Joint meeting, Hawaii, USA	©K. Yamakawa, S. Amano	
Two-dimensional mapping of Japanese fricative and affricates spoken by Japanese and Korean	共著	平成29年9月	International Symposium on Monolingual and Bilingual Speech (ISBMS2017), Greece	©K. Yamakawa, S. Amano	
【コラム】					
「私のすすめるこの一冊」	単著	平成29年11月	日本音響学会誌, 73巻, 11号	山川仁子	In press

Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

(学会活動)	
平成20年9月～平成21年3月	情報通信技術委員会 コミュニティツール作業部会 副主査
平成19年11月	上智大学オープン・リサーチ・センター ヒューマンコミュニケーショングループ 平成19年度第2回研究会(上智大学) 招待講演 題目:「音声コーパスの分類と可視化」
平成20年9月～平成21年3月	情報通信技術委員会 コミュニティツール作業部会 副主査
平成21年12月	National Conference on Man-Machine Speech Communication (NCMMSC 2009), Lanzhou, China 招待講演「Visualization method of similarities among multiple speech corpora.」
平成22年4月～現在	日本音響学会論文誌 査読委員
平成22年4月～平成25年3月	日本音声学会企画委員会 委員
平成22年9月	日本音響学会東海支部技術講習会「音声の知覚と生成の相互作用をめぐって」講師(愛知工業大学) 題目:「言語習得における音声知覚・音声生成の相互作用」
平成28年6月～現在	日本音響学会聴覚研究会幹事
平成28年9月～現在	日本音響学会音声コミュニケーション調査委員会委員
平成29年4月～現在	日本音響学会九州支部 会計幹事
平成29年4月～現在	日本音響学会論文誌(英文誌)特集号 編集委員
平成29年4月～現在	ヒューマンインターフェース学会論文誌特集号 編集委員
(競争的研究資金獲得状況)	
【科学研究費補助金採択研究】	<p>基盤研究(C), 研究分担(研究代表者:天野成昭, 愛知淑徳大学) 平成21年4月～平成24年3月 「日本語摩擦音・破擦音における母語話者別の知覚・生成範疇境界の研究」(研究課題No. 21530782)</p> <p>若手研究(B), 研究代表, 補助金額:4030千円 平成22年4月～平成25年3月 「日本語無声摩擦音における母語話者別の音響的特徴の解明」(研究課題No. 22720173)</p> <p>基盤研究(B), 研究分担(研究代表者:近藤真理子, 早稲田大学) 平成22年4月～平成26年3月 「第一言語の韻律特性が日本語学習者の音声知覚・生成に及ぼす影響の解析」(研究課題No. 22320081)</p> <p>挑戦的萌芽研究, 研究分担(研究代表者:榊原健一, 北海道医療大学) 平成23年4月～平成25年3月 「雪中における音場計測と音声明瞭度評価」(研究課題No.23651182)</p> <p>挑戦的萌芽研究,研究分担(研究代表者:天野成昭, 愛知淑徳大学) 平成24年4月～平成27年3月 「言葉の鎖をターゲットとした音声の知覚・生成過程の研究」(研究課題No. 24652087)</p>

	<p>基盤研究(B),研究分担(研究代表者:天野成昭,愛知淑徳大学) 平成25年4月～平成30年3月(予定) 「日本語における音韻の知覚・生成範疇境界を規定する要因の研究」(研究課題No.25284080)</p>
	<p>基盤研究(C),研究分担(研究代表者:牧勝弘,愛知淑徳大学) 平成25年4月～平成28年3月 「実環境における音空間処理に関する研究」(研究課題No.25330209)</p>
	<p>基盤研究(C)研究代表,補助金額:4550千円 平成26年4月～平成29年3月 「日本語音声の自然性を決定づける音響特徴の解明」(研究課題No.26370464)</p>
	<p>基盤研究(B),研究分担(研究代表者:榊原健一,北海道医療大学) 平成27年4月～平成31年3月(予定) 「生成メカニズムに基づく声質の音声学的分類」(研究課題No.15H03207)</p>
	<p>挑戦的萌芽研究,研究分担(研究代表者:天野成昭,愛知淑徳大学) 平成27年4月～平成31年3月(予定) 「荒天時における拡声音の情報伝達特性の解明」(研究課題No.15K12494)</p>
	<p>基盤研究(B),研究分担(研究代表者:榊原健一,北海道医療大学) 平成28年4月～平成31年3月(予定) 「調音運動の時間パターン分析に基づく音声言語に内在する時間構造の解明」(研究課題No.16K13221)</p>
	<p>基盤研究(C)研究代表,補助金額:4550千円 平成29年4月～平成32年3月(予定) 「日本語音声の自然性を予測する定量的モデルの構築」(研究課題No.17K02705)</p>
【その他競争的資金】	<p>新領域融合研究センター,平成22年度融合研究シーズ探索提案研究助成, 研究代表,補助金額:1000千円,平成21年9月～平成22年3月 「音響特徴データに基づく音声言語分類手法の確立」</p>
	<p>愛知淑徳大学研究助成(特定課題研究) 研究代表,補助金額:1000千円,平成23年4月～平成25年3月 「発声速度を考慮した摩擦音・破擦音の範疇境界の解析」</p>
	<p>愛知淑徳大学研究助成(特定課題研究), 研究代表,補助金額:1000千円,平成25年4月～平成27年3月 「東南アジアの言語を母語とする日本語学習者における音声の音響的特徴の解明」</p>
	<p>公益財団法人電気普及財団助成—研究調査関係—, 研究代表,補助金額:1500千円,平成29年4月～平成31年3月 「外国語の拡声音による情報伝達に関する基礎調査」</p>